

N I E (Newspaper In Education) 実践報告

1 目的

新聞に親しむことで、社会全般に対する興味関心を高め、情報を主体的に活用する能力を育成する

2 新聞購読計画

平成22年 4月～ 7月 朝日・毎日新聞

9月～12月 読売・日経新聞

平成22年 12月～ 3月 南日本・南海日日新聞

3 活動内容とその分析、課題

(1) 閲覧コーナーの設置 (2年生)

<内容> 1・2年生の教室の後方に、「N I Eボックス」を設置し、隔日ごとに毎朝届いた新聞をクラスごとに入れて、朝読書や休憩時間に自由に新聞が読める環境をつくった。

<分析> 協力してくれた先生たちに話を聞くと、「教室に新聞があるので、手にとって読む生徒の姿がよく見られるようになった。」「新聞の記事が日頃の話題となったこともあった」「テレビ欄や芸能などには目を通すが、社会面・経済面までは見ていないようであった」「活字だけの記事には目を通さず、写真のある記事やスポーツ欄によく目を通していった」「生徒が読んだ記事について話してくれた」などのコメントがあった。

私が担当しているクラスでも、すべての生徒が新聞に目を通すようになったとは言い難いが、新聞を置くとすぐに新聞を取りに来る生徒や、休み時間に話題の記事を中心に輪になって読む生徒が昨年以上に増えたと感じる。

<課題> 昨年度に引き続き、全体的に政治・社会面について読んでいる生徒は少ないように感じた。また、社説やコラムなどの記事を紹介することで、活字離れの傾向がある生徒たちに、記事の本当のおもしろさをもっと伝える取り組みが必要であった。また、社説の要約やコラムに対する感想文などを課題とすることも有効であると思う。



(2) 生徒による新聞発表 (2年生:SHR時)

<内容> 私が担当する2年1組では、2学期以降、朝のSHR時に、生徒が興味をもった新聞記事の紹介と感想を発表させた。1クラス20名と生徒数が少ないため、現在は4巡目ほどである。



事前指導では、まずどこの新聞社の何月何日の記事で、タイトルは何かということをはっきりと伝える。これは、他人に情報を伝えるときは情報源を正確にすることが大切であることを意識させるためである。次に、記事を教室の端から端まで見せるが、これは、プレゼンテーションの際はずっと下を見るのではなく、できるだけ聴衆の端から端まで目を行き届かせ、聴衆の意識を自分に惹きつけることが大切だからである。



そして、記事の要約である。ここではなるべく簡潔に、ただし記事の概要が伝わるよう要約する事を指導している。そして、その記事に対する発表者のコメントは、ただ感じたことや思ったことだけではなく、どうしてそう思ったのか、自分だったらどうすべき(どうした)かまで発表するように指導している。こうして、人に自分の意見を述べる時は、その理由と自分なりの考えを示すことが重要であることを意識させている。

<分析> 1学期は、教員(私)がスクラップした新聞記事を使って、朝のSHRで新聞発表をし、まずは新聞に対する興味関心を持ってもらうように努めた。2学期以降は、生徒たちによる新聞発表をしてもらったが、今では何も言わなくても、生徒たちは当たり前のように新聞発表の準備をしてきてくれる。生徒たちの聞く姿勢も良好で、新聞発表を楽しみにしている生徒も一部だがいる。ただ、負担に感じている生徒がいるのも事実で、生徒たちにアンケートしたところ、7名が「役に立った」、9名が「どちらでもない」、3名が「役に立たなかった」と回答した。「役に立った」と答えた生徒にその理由を答えてもらうと、「人の前に立って発表する事に慣れた」「自分では気づかないような記事を知ることができた」「いま世界で何が起きているかが、わかる様になった」「3年生になった時にとっても役に立つと思う」という回答があった。

<課題> 生徒による発表の前半は、スポーツ記事を扱う発表が多く、感想も1~2行で終わることが多くて深みに欠けていた。また、記事の要約も不十分であった、概要を相手にうまく伝えることでできない発表も多くあ

った。ただ、後半になると、優れた発表をする生徒が増え、それに刺激を受けたのか、政治や経済の問題をあつかう生徒も増えたように感じる。

発表後は、他の生徒が発表した記事を詳しく知りたい時に読み返せるように、教室の後方にファイルを設置した。生徒たちは、自ら進んで発表プリントをきちんと綴じていたが、他の生徒の発表記事を読み返す者はほとんどいなかった。できれば、教室後方の掲示板に、発表した記事を紹介するコーナーを設置するなどの工夫が必要であったと思う。



(3) 授業の導入で新聞活用 (1～3年)

<内容> 私が担当している1年生の世界史A、2年生の世界史Bと倫理、3年生の世界史B・現代社会の授業では、授業の導入で時事問題や教科に関する記事をスクラップしたものを紹介する事で、生徒の興味関心を高める工夫をした。また、3年生の現代社会の授業では、①生徒による新聞発表、②新聞の株価欄を活用した、株式についての学習や売買のシミュレーション、③現代社会の諸問題について新聞記事も活用したディベートを行った。

<分析> 私が担当するすべての授業で、授業の導入として、世間話的な感覚で、新聞記事を扱ったが、これは生徒の興味関心を高めるよい材料となったと思う。また、現代の出来事が、世界史などの学習内容と密接に関わっていることを上手く関連付けられた時などは、歴史を学ぶ意味を再確認できるよい機会にもなった。また、①の現代社会での生徒による新聞発表は好評で、積極的に自分の意見や感想を述べる生徒たちが多かった。②の株価欄を活用したシミュレーションは、ゲーム感覚で生徒たちも楽しそうに取り組んでいた。2008年のリーマンショックの時の株価の変動なども同時に示し、現代の株式市場の脆弱性も示すことができた。③のディベートについては、インターネットでの情報収集の際に、不確かな情報が氾濫するネット社会の中で、新聞社の提供する情報の優位性を紹介し、メディアリテラシーという概念についても学習させた。

<課題> 2年生に先生が時事問題を取り上げることについてどう思うかアンケートすると、「役に立った」(17名)「どちらでもない」(23名)「役に立たなかった」(0名)という結果であった。私が授業を担当していない者もいるとはいえ、もっと「役に立った」と答える生徒が増えるように、教員側が普段からこまめに新聞に目を通して、より一層授業に関連した記事を収集する努力が必要であると思う。

4 まとめ

2年生の2クラス（生徒数41名）に実施した、NIEについてのアンケート結果のまとめと、分析（※）を行いたい。

①「あなたは、一日に何分ほど新聞を読みますか。」

60分以上（1名）／60～30分（0名）／30分～15分（3名）／
15～5分（8名）／5分未満（29名）

※新聞を一日5分未満しか読まない生徒が約70%、15分未満も含めると約90%以上もいることが分かった。もっと時間をかけて新聞を読めるよう、コラムや社説などの記事を使った指導にも取り組みたい。

②「教室に新聞があることで、実践前にくらべてあなたの新聞を読む回数は増えましたか。」

増えた（7名）／変わらない（34名）／減った（2名）

※NIEの活動に参加して2年たつが、約90%近い生徒がその効果を感じないと答えたことは、活動の成果が不十分であったと言わざるをえない。もっと教員側から、生徒が興味をもてるような記事を後ろの掲示板に紹介するなどの工夫が必要であった。

③「新聞記事について、実践前にくらべて友人や家族と話すようになりましたか。」

増えた（5名）／変わらない（35名）／減った（1名）

※新聞記事の内容を話題に取り入れるなど、生徒が様々な人とのコミュニケーションを深められたらという思いがあったが、やはり90%以上の生徒が、そうしたコミュニケーションツールとしては活用しきれていなかったことが分かった。ただ、5名の生徒が「増えた」と答えたことは、若干の明るい材料である。

④「実践前によくよんでいた記事と、現在よく読むようになった記事を下の語群から、二つ選んで答えよ。」

< 語群 >

「政治」／「経済」／「外国」／「社会」／「スポーツ」／「事件・事故」
「健康・福祉」／「科学」／「文化・芸能」／「家庭」／「投書欄」
「社説・コラム」／「マンガ」／「趣味・娯楽」／「地域」／「テレビ欄」

実践前 1位：「テレビ欄」（24名）／2位：「スポーツ」（19名）／
3位：「事件・事故」（7名）／4位：「趣味・娯楽」（5名）
5位：「政治」「文化・芸能」「健康・福祉」（3名）

実践後 1位：「スポーツ」（20名）／2位：「テレビ欄」（14名）／
3位：「事件・事故」（9名）／4位：「経済」「健康・福祉」（6名）
5位：「政治」（5名） 6位：「外国」（4名）

※実践前は、「テレビ欄」「スポーツ」の二つを答えた者が52%いるのに対して、実践後は、「テレビ欄」「スポーツ」と答えた者が41%と、10%減少している。その代わりとして、実践後は「経済」「健康・福祉」「政治」「外国」などの多方面に興味関心が拡大していることがわかった。

④「あなたが情報を獲得する手段として、普段よく利用しているメディアを二つずつ選んで答えよ。」

1位：「テレビ」（36名）／2位：「携帯電話」（19名）／
3位：「新聞」（16名）／4位：パソコン（ネット）（8名）／
5位：「ラジオ」・「書籍」（1名）

※生徒が情報獲得の手段としているのは「テレビ」で43%であった。ただ、2位の「携帯電話」と答えた者が23%もいたのは驚いた。現在の高校生は、「新聞」のような多様な情報を提供するメディアよりも、「携帯電話」などのような、自分が必要な時に必要な情報をピンポイントに獲得できるメディアにシフトしている傾向がうかがえる。

⑤「NIEに参加したことで、現代社会の諸問題に対する興味・関心は高まりましたか。」

高まった（16名）／変わらない（23名）／高まらなかった（1名）

※2年間におよんだNIEの活動であったが、「高まった」と答えた生徒が約40%、「変わらない」「高まらなかった」と答えた生徒が約60%という結果となった。現代社会の諸問題にまずは関心を持ち、その解決に向けて何らかのアクションをとることが、これからの日本社会を支える若者にとって必要不可欠なことである。新聞というメディアはそうした、現代社会の諸問題を幅広く知ることができる、信頼性の高い重要なメディアであることをこれからも、訴え続けていきたい。